「不便」の価値を見つめ直す (1)

川上 浩司

1 「不便でよかった。」と感じたことはないだろうか。

2 こう尋ねると、たいていの場合、①けげんな顔をされる。「便利でよかった」ならばわかるが、「不便でよかった」とはどういうことか、不便でよかったことなんてあるはずがない、というわけだ。（中略）

4 私も、元は設計の自動化について研究していた。何か欲しいものがあれば、自動的に設計してくれるコンピュータを作れたらどんなにかすばらしいだろうと考えていたのだ。ところが、あるとき、②次のような疑問が生じた。全てを自動化できれば楽にはなるが、その分、自分で考えることによって得られる達成感や喜び、技術の向上も望めないことになる。それは、本当に人の生活を豊かにするデザインなのだろうか、と。確かに、便利になることで楽になるという側面はある。そして、それが必要な場面もあるだろう。しかし、一様に便利さばかりを追求し続けることで、私たちの生活や社会は本当に豊かになっていくだろうか。今、便利の追求以外の新たな発想が求められているのではないか。

5 このような考えから私が着目したのが、これまで見過ごされてきた「不便」の価値である。私は、不便だからこそ得られるよさを「不便益」とよび、その発想を新しいデザインに生かせないか、日々研究している。

（1～5は教科書本文における形式段落番号を表します）

筆者の主張を捉える

本文では、一般的な考えに対してそれとは異なる筆者の考えが述べられている。次のような表現では、逆接（しかし）の後に筆者の考えが書かれていることが多いので注意する。

・確かに～。しかし、…。
・一般に～。しかし、…。

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「けげんな顔をされる」とあるが、なぜけげんな顔をするのか。適当なものを選びなさい。

ア 不便でよかったことがないか、思い起こしているから。
イ 不便でよいことなどあるはずがないと考えているから。
ウ 不便の価値を見過ごしていたことに気づかされたから。

〔　　〕

(2) ――線②「次のような疑問が生じた」とあるが、これ以降で筆者が問題提起していることは何か。最も適当なものを選びなさい。

ア 便利になることで、人の生活が楽になるというときがあるのではないかということ。
イ 便利になることで人の生活が楽になることも、必要な場面があるのではないかということ。
ウ 便利になることばかり追求しても、生活や社会が豊かになるとは限らないのではないかということ。

〔　　〕

(3) 全てを自動化することで損(そこ)なわれるものを、本文中から二十五字以上三十字以内で探し、最初と最後の三字を書きぬきなさい。

□□□ 〜 □□□

(4) 「不便益」の定義を本文中から十字以上十五字以内で探し、最初と最後の三字を書きぬきなさい。

□□□ 〜 □□□